

【令和6年1月4日作成】
茨城県林業技術センター
きのこ特産部

ウルシ種子発芽促進マニュアル

—ミキサーによる簡易な脱ロウ処理—



はじめに

ウルシ種子はロウ成分を含む硬い果皮で覆われているため、種子の発芽にはロウ成分を除去(脱ロウ)する必要があります。脱ロウには濃硫酸を用いた方法がありますが、より簡易かつ安全な方法として、ミキサーを使った方法を紹介します。

1. 道具

使用するミキサーは市販の料理用ミキサーです

名称: ガラスコンパクトミキサー

製造: 株式会社アズマ

型番: EMM-527-WHBL

消費電力: 180W

カッター: 平刃

容量: 450ml



2. 方法(脱ロウ)

以下の手順で脱ロウ処理を行います。

3月中に播種ができるよう、1～2月に行います。



①枝の除去

枝をしごいて果実のみ取り出す



②外果皮除去

果実30gと水250mlを混ぜ、ミキサーのスピードは弱にして2～3秒攪拌する



③水洗い

ざる等を用いて、外果皮等の余分なゴミと水に浮いた種子(しいな)を除去



④脱ロウ

種子100gと水450mlを混ぜ、ミキサーのスピードは弱にして30秒×3回攪拌する

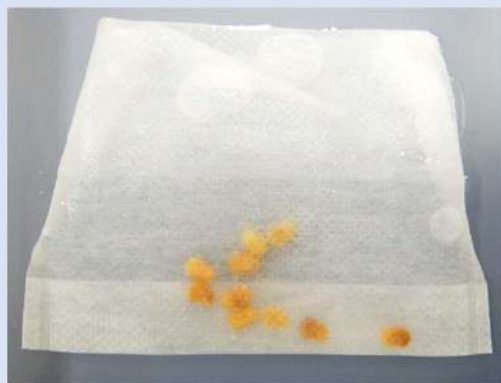


④水洗い

ざる等を用いて、余分なゴミに加え、水に浮いた種子(しいな)も除去

3. 方法(低温湿層処理)

脱口ウ処理した種子は、直ちに低温湿層処理を行う必要があります。



①袋詰め

水を通す袋(例:茶こし袋)に種子を入れる(写真よりも多くの種子を入れて良い)



②浸漬

水を張った容器に、袋のまま浸し、毎日水を替えながら3日間冷蔵庫に入れる



③低温湿層処理

濡れたままの袋をユニパック(チャック付きのビニール袋)に入れ、冷蔵庫または冬の野外に埋土※1



③播種(3月中)

6週間後、種子を取り出し、播種※2

※1 低温湿層処理の最適期間は6週間ですが、低温湿層処理中に早めに発芽する事例も確認されています。可能であれば、低温湿層処理中の種子を観察し、発芽した種子を見つけたら早めに取り出して播種してもよいです。

※2 ウルシは隔年で種子の豊凶があります。発芽率の目標は、豊作年は50%程度、凶作年は30%程度です。

本マニュアルの作成にあたり、ミキサー処理方法を開発した、茨城県林業種苗協同組合の大越靖史氏、根本和典氏、飛田正美氏、飯塚聖二氏、御協力・御助言頂いた奥久慈漆生産組合の神長正則氏に厚く御礼申し上げます。